

自立訓練(生活訓練)事業所 さんさん 平成30年度事業報告

●利用状況

【年間利用者数】

自立訓練(生活訓練) ※日中	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平成30年度 合計	平成29年度 合計	前年比	平成30年 平均利用者 数(月)	平成30年 平均利用者 数(日)
		424人	404人	410人	436人	505人					
宿泊型自立訓練	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平成30年度 合計	平成29年度 合計	前年比	平成30年 平均利用者 数(月)	平成30年 平均利用者 数(日)
		628人	588人	592人	653人	698人					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5058人	4968人	101.8%	421.5人	20.7人
	550人	504人	401人	279人	345人	333人					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	8067人	7885人	102.3%	672.3人	22.0人
	628人	588人	592人	653人	698人	786人					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
	786人	741人	737人	661人	588人	609人					

【宿泊型自立訓練 登録者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
前月より繰越利用者数	22人	20人	20人	20人	21人	24人	27人	27人	26人	25人	23人	24人	279人
入所者数	1人	1人	1人	2人	5人	4人	1人	0人	1人	0人	1人	0人	17人
退所者数	3人	1人	1人	1人	2人	1人	1人	1人	2人	2人	0人	1人	16人
月末利用者数	20人	20人	20人	21人	24人	27人	27人	26人	25人	23人	24人	23人	280人

●相談受付状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規相談者数	4人	2人	5人	1人	1人	0人	0人	6人	4人	0人	4人	6人	33人
通所型体験利用者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	3人
宿泊型体験利用者数	1人	5人	2人	2人	5人	3人	3人	1人	1人	0人	5人	6人	34人

●利用促進への取り組みについて

- ・三重県下精神科病院への営業訪問と空室状況の情報提供を実施。
- ・令和元年度(R1)については圏域の計画相談支援事業所を訪問予定。
- ・迅速な施設見学、体験利用日程の調整による初回相談から正式利用までの期間の短縮化。
- ・入・退所者のスケジュール管理。
- ・広報、ホームページ作成、パンフレット配布による外部機関への周知。

●日中及び宿泊型の支援プログラム

【日中】

- ① 健康管理
〔スポーツ、体操、運動(踏み台昇降、卓球、軽体操)、散歩、健康チェック、他〕
- ② 園芸
〔施設敷地内の畑作業 収穫作業〕
- ③ 調理
〔日常的な調理の練習、食事会〕
- ④ 環境・衛生
〔居室の清掃、施設内共有スペース清掃、冷蔵庫・保管庫の清掃〕
- ⑤ ボランティア活動
〔施設周辺の清掃〕
- ⑥ 鈴鹿厚生病院との医療連携体制による健康管理への支援〔毎月2回実施〕
- ⑦ その他

【宿泊型】

- ①調理 ②掃除・入浴支援 ③外出支援 ④寝具の取りまとめ ④個別支援 ⑤相談支援 ⑥その他

●諸会議

【内部】

- ① 生活訓練部会議・・・毎月第4水曜
利用者の支援に対しての事前打合せ、業務に関する検討。
実績の確認と利用促進の為の具体的改善方法の検討。
- ② ケース会議・・・毎月第3金曜
囑託医師の参加のもと、入退所や支援の検討等

- ③ ケア会議(通所型)・・・毎週木曜
通所利用者支援計画の検討
- ④ ケア会議(宿泊型)・・・毎週木曜
宿泊型利用者支援計画の検討

【事業所間共通の会議】

- ⑤ 運営管理会議・・・毎月第3火曜
サービス管理責任者・・・すずわ・さんさん連携会議

【外部】

- ① 鈴鹿市地域自立支援協議会・・・随時
- ② 鈴鹿地域連携委員会・・・毎月1回
- ③ 鈴鹿地域移行システム委員会・・・3ヶ月に1回
- ④ 三重県精神障がい者福祉事業所連絡協議会・・・毎月1回
- ⑤ 三重県精神障害者地域移行・地域定着ワークキング・・・毎月1回
- ⑦ 暮らし部会、GH・福祉ホーム連絡協議会・・・年8回

●行事实施状況

○ 10月	バーベキュー	参加人数: 78名	職員参加人数: 22名	計100名
○ 11月	日帰り旅行(岐阜県・博石館)	利用者参加人数: 24名	職員参加人数: 12名	計 36名
○ 12月	クリスマスパーティー	利用者参加人数: 24名	職員参加人数: 13名	計 37名
○ 1月	初詣(津観音・三重県総合文化センター)	利用者参加人数: 27名	職員参加人数: 13名	計 40名
○ 2月	食事会	利用者参加人数: 21名	職員参加人数: 8名	計 29名

●実習生受入れ

- 鈴鹿医療科学大学看護学部 実習受け入れ(2月～3月)
- 皇學館大學・・・精神保健福祉士実習受け入れ1名(8月)
- 日本メディカル福祉専門学校・・・精神保健福祉士実習受け入れ2名(6月)
- 日本福祉大学・・・精神保健福祉士実習受け入れ1名(9月)

●職員研修

●階層別に初任者研修・中堅職員・リーダー養成・各職務スキルアップ等

- 5月: 精神保健福祉基礎研修【基礎知識編】(1名)
- 5月: 精神保健福祉基礎研修【基礎技術編】(1名)
- 5月: 農業ジョブトレーナー養成講座(1名)
- 5月: 課題別専門研修Ⅰ「アサーティブコミュニケーションを学ぶ」(1名)
- 6月: 障がい福祉サービス事業所 職員等基礎研修(1名)
- 6月: 課題別専門研修Ⅲ「社会福祉施設における防災」(1名)
- 7月: 包括的暴力防止プログラム指導者養成研修会(1名)
- 7月: 生涯研修課程「中堅職員研修課程」(2名)
- 7月: 三重県相談支援従事者初任者研修(1名)
- 8月: 三精連「生き生き楽しく働きたい！そのためにすべきことは」
- 9月: 三重県医療観察制度指定医療機関連携部会及び福祉サービス事業所連携部会(1名)
- 9月: キャリアパス対応生涯研修課程「チームリーダーコース」(2名)
- 9月: 包括的暴力防止プログラムフォローアップ研修(1名)
- 9月: 三重医療観察保護法ネットワーク研修会(1名)
- 10月: 社会福祉士実習指導者講習会(1名)
- 10月: キャリアパス対応生涯研修課程「中堅職員コース」(2名)
- 12月: 精神科医療と福祉の連携研修会(1名)
- 12月: 業種別研修 障害福祉施設職員研修Ⅱ「障がい者への意思決定支援」(1名)
- 3月: 災害時福祉支援リーダー養成講座「福祉避難所での対応」(1名)

●職員目標設定の取り組み

- 期首に各正職員が年度の業務目標を設定し半期毎に自己判定を実施。
- 各職員が設定した目標に対して実現する為の環境を整えるための面談を実施。

●虐待防止への取り組み

- 虐待防止セルフチェック 全職員毎月実施。

●リスク対応

○ 平成31年1月17日発症の麻疹について(報告)

- ・1月11日 保健所より連絡があり1月7日の八木医院受診時に麻疹感染者がおり、定期受診していたさんさん利用者に感染の可能性が判明。
- ・1月17日 37.5℃の発熱。この時点では保健所より経過観察の指示。
- ・1月18日 更なる体温上昇(37.9℃)がみられ、保健所に連絡後八木医院受診。保健所が検体採取。本人、居室にて隔離とする。
- ・1月20日 検体から陽生反応。保健所職員がさんさんに来訪され、他者との接触状況や本人の発症日の特定(1/17)が行われる。さんさん利用者及び職員全員が3週間の健康観察対象者となる。
利用者全員居室での個別対応開始。

※1/21、22 : さんさん職員全員(2回接種歴者を除く)MR予防接種を受ける。

※1/22、23 : 利用者全員(通所含む、感染者本人除く)MR予防接種を受ける。

- ・1月28日 本人解熱より3日以上経過。保健所より発症日(1/17)より三週間の健康観察期間は必要との事で2月6日まで全員の居室での個別対応が継続となる。

- ・2月6日 保健所にその後二次感染者が発生していない事を最終報告。健康観察期間終了となる。

- ・2月13日 **利用者・職員ともに、二次感染者見受けられず、終息となる。**

○ 隔離対応

- ・発症のリスクが高まる、接触日から10日～12日付近の1/24～28を完全隔離対応とした。
全室にポータブルトイレを設置し、職員が一時間毎の巡回。1日3回(10:00、13:00、16:00)の検温・健康状態確認
をし、余暇活動の提供や給茶サービス等も提供し、隔離対応による心理的ストレスにも配慮した。
また、地域からの通所者に対しては一日一回電話にて健康状態の確認を行った。

※今回は、感染が発覚した時点での迅速な予防接種、迅速な個別対応が功を奏したと考えられるが
今後は、二次感染者が出た場合の隔離対策法や入居前の抗体検査や予防接種の斡旋など
感染拡大防止が課題となる。